



## 簿記論 & 財務諸表論 科目合格 前田卓也さん(男性・20歳代)

### ■ 受験歴

年	受験科目	所属	勉強スタイル
H23	簿記1級 <b>合格!</b>	大学3年	専門学校(O)
H24	消費税法 <b>合格!</b>	大学4年	専門学校(O) 初学者一発合格コース
H25	簿記論 <b>合格!</b>	大学院1年	独学
	財務諸表論 <b>合格!</b>		専門学校(O) 初学者一発合格コース

経済的な理由から「簿記論」は独学で受験勉強することに。偶然、書店で見つけた会計人コースを購入し、繰り返し使い込んだ。  
見事、一発合格!

### Q1 『会計人コース』をどのように使っていましたか？

#### ◇問題集として

『会計人コース』では「日商簿記1級」、「税理士簿・財(基礎)」、「税理士簿・財(応用)」、「会計士短答式」対策の連載がそれぞれ行われていたので、すべての問題に取り組みました。1年間で主要論点を一通り学習することができるので、試験までに2~3回ずつ解き直しを行いました。**試験によって出題形式が異なるため、応用力(対応力)を鍛えるという意味で、よいトレーニングになった**と思います。

また、試験が近づくにつれて『会計人コース』で取り扱う問題も難易度が高くなっていくため、**自分の現状と試験で求められるレベルのギャップを知るのに役立ちました。**

#### ◇他の教材との使い分けなどについて

簿記論は『会計人コース』のみ、財務諸表論は、予備校の理論テキストをベースに、『会計人コース』の連載「ハイパー・トレーニング」も合わせて読んでいました。この連載のよいところは、**理論の解説が横のつながりを重視して記述してあるところ**です。試験では、この理論の横のつながりが非常に重要なので、「ハイパー・トレーニング」を使ってこの点を意識しながら学習に励むことができました。

#### ◇モチベーション維持について

いつも「私の独立開業日誌」を楽しみにしていました。このコラムでは、現在税理士として活躍している方々が、どのように試験を乗り越えていき、独立するにあたってどのような困難に直面したかを知ることができます。**自分が税理士になった後、どのように活動していきたいかを考えながら読むことで、試験勉強のモチベーションを維持**していました。

### Q2 「もっとこうしておけばよかった」と思う勉強方法はありますか？

私は週4,5日アルバイトをしているため、一度も予備校で模試を受けることができず、大学の図書館で1人黙々と模試を解いていました。大勢の人がいる教室で模試を受ける場合に比べて、緊張感がなく、ついダラダラしがちでした。

また、採点も自己採点なので理論の採点が曖昧になりがちでした。特に、テキストの内容をそのまま答えるだけでは対応できない応用理論は講師の方に見てもらって採点してもらった方がいいと思います。

### Q3 合格の勝因は何だと思えますか？

「**基礎**」を最も大切にしたことだと思います。直前期には、①テキストの総復習→②実力判定公開模試(テキストに載っている項目のみの模試)→③過去問→④その他の模試(応用論点)という風に優先順位を付けて学習していました。

「**基礎が一番大事**」という考えが、私を合格に導いてくれました。

### Q4 勉強で工夫していたことはありますか？

簿記論と財務諸表論を並行して学習していたので、「**計算→理論暗記**」の順で学習していました。先に計算方法を学ぶことで、その論点の概要をつかむことができます。取引のイメージが頭に入った状態で理論暗記を行ったことで、理解度と知識定着率の両方を向上させることができました。

### Q5 振り返って「これはうまくいった」と思う勉強方法はありますか？

すべての科目に共通することですが、試験に近付けば近づくほど模試の難易度は高くなっていきます。とくに直前の模試では出題可能性が非常に低いものや難易度が非常に高いものが多く出題されます。試験への不安から、つい直前期にはそのような問題のインプットに時間をかけがちですが、私は**直前期にこそテキストレベルの基礎項目の復習に時間をかけました**。

税理士試験合格の鍵は「**みんながとれるところを落とさない**」ことであり、難易度が高い項目ではあまり差がつきません。また、直前期にのみ出題されるような項目は習熟度が低いため、もし本試験で出題されたとしても、正しい解答を導くことは難しいと判断したため後回しにしました。今年の試験(簿記論・財務諸表論)は基礎項目からの出題がほとんどだったため、この学習方法は成功だったと思います。